令和２年第４回（７月）臨時会　文教生活常任委員会報告書

議案番号	議案の名称	審査結果	採決日
議案第８４号	令和２年度宝塚市病院事業会計補正予算（第３号）	可決（全員一致）	７月１３日

審査の状況

①　令和２年　７月１３日　（議案審査）

・出席委員　◎浅谷　亜紀　　〇横田　まさのり　　伊庭　　聡　　風早　ひさお
川口　　潤　　北野　聡子　　田中　こう　　冨川　晃太郎
三宅　浩二

②　令和２年　７月１４日　（委員会報告書協議）

・出席委員　◎浅谷　亜紀　　〇横田　まさのり　　伊庭　　聡　　風早　ひさお
川口　　潤　　北野　聡子　　田中　こう　　冨川　晃太郎
三宅　浩二

（◎は委員長、〇は副委員長）

令和２年第４回（７月）臨時会　文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名

議案第８４号　令和２年度宝塚市病院事業会計補正予算（第３号）

議案の概要

補正後の令和２年度宝塚市病院事業会計予算

収益的収入及び支出

病院事業収益の予定額　135 億 2,247 万 8 千円(2 億 3,115 万 4 千円増額)

収益的収入の主なもの

帰国者・接触者外来等プレハブのリースのための補助金及び防疫手当支給のための補助金の増額

事業継続のための減収補填補助金の増額

病院事業費用の予定額　133 億 2,128 万 6 千円(3,115 万 4 千円増額)

収益的支出の主なもの

職員給与費の増額

帰国者・接触者外来等の経費

議会の議決を経なければ流用できない経費補正

68 億 562 万 4 千円(2,990 万円の増額)

他会計からの補助金補正

増額　一般会計からの補助

論　　点　なし

＜質疑の概要＞

問１　病院事業経営に関しコロナ禍の影響が大きいということだが、国の交付金だけでなく、財政調整基金をこの臨時会のタイミングで取り崩してまで対応しようとしているのはなぜか。

答１　事業継続補助金 2 億円としているが、予算上の財源は、臨時交付金が約 1,760 万円で、残りを財政調整基金から取り崩す。しかし、実際は臨時交付金の対象事業費が執行状況により全体的に落ちてくると思われ、その分を病院事業への補助金に充て、財政調整基金のとりくずし額を減らすことを考えている。臨時交付金の活用という面で、この時期が一番適切と考えている。

問２　4 月、5 月の病院事業の赤字について、新型コロナウイルス感染症の影響はどれくらいあったのか。また、病院経営のいろいろな収支改善策を出しているが、それを実行した上での赤字額はどうするのか。

答２　昨年度の 1 日平均入院患者数は約 340 人だったが、今は 300 人を切っている。1 人当たりの 1 日の入院単価は約 5 万 5 千円であることからその分が減収となっている。また、増収を図るため今年度は医師も確保し、手術件数の増を目標にし

ていたが、患者は減り手術もキャンセルされ、減収の要因となっている。一方、入院、外来ともに単価は上がっており、4 月、5 月の 2 か月で 2 億 7 千万円近い赤字となっているが、一般会計からの補助金を受け入れた上で、今後 1 年で収支を均衡させるための数値目標を職員に周知している。具体的には、1 日平均入院患者数を 330 人に、1 日平均外来患者数を 800 人に回復させ、1 人 1 日当たりの入院単価を 6 万 2 千円にすることを目標としている。そのほか、紹介患者、救急患者を積極的に受け入れ、診療単価を上げるために加算を取れるようにするなど、毎月会議を実施し、具体化のためのプロジェクトチームを幾つか立ち上げ、全員で取り組んでいく。

問３　収支改善策のテーマとして、病院事業管理者、総長、病院長のリーダーシップとマネジメントが挙げられているが、経営改善に向けた役割分担は。

答３　病院事業管理者は全体の統括、総長は対外的に兵庫医科大学病院との連携や医師の確保、医師会や他の病院との連携強化、病院長は院内の入院、外来の収益改善、経費削減については事業管理者が人事権を行使し人員配置をするという分担となっている。

問４　今回、2 か月で 2 億円という減収分の補填を行うが、今後さらに損失が増えた場合、補填についてどう考えているのか。財政調整基金も底が見えており、市単独の支援では難しくなってくる。国や県へ様々な制度を要望していくことも必要では。

答４　新型コロナウイルス感染症によって全国的に厳しい経営状況の公立病院への支援を国にも要望し、公営企業の特別減収対策企業債も発行できるようになったが、返済が必要となるためその支援の検討も必要である。また、今後、新型コロナウイルス感染症の第 2 波、第 3 波の影響や新しい生活様式による患者減の影響でますます厳しい経営状況が続く可能性もある。市長部局も病院と一緒になって経営改善に取り組み、併せて病院への支援も常に検討し病院と協議して提案していく。

問５　市立病院で新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるということになったが、医師や看護師のモチベーションや市立病院の現状は。

答５　2 月から救急科で新型コロナウイルス感染症患者の受入れを表明し、実際に患者を受け入れてきた。総合内科 2 で発熱外来を開設し、帰国者・接触者外来も続けてきている。初めは高齢者が重症化し、今は若者の患者が増えている状況だが、職員のモチベーションは損なわれていない。前向きに患者を受け入れ、患者が増えたときも減ったときも迅速に、協力して対応しており、今後の患者の増え方は読めないが、職員間で情報共有しながら、市立病院として最大限の貢献をしていきたいと考えている。

問６　新型コロナウイルス感染症の患者が、第２波のように増えてきている。発熱外来の拡充については調整中とのことだったが。

答６　一時落ち着いてきていたが、この一、二週間で発熱外来の受診者数が増えている。発熱外来の役割は大きいと考えているため、院内で協力する体制を考えていきたい。

問７　収支均衡を目指していく中で､経費削減があまり進んでいないように思えるが。

答７　腫瘍内科で化学療法を多く実施しており、使用する薬品が先進的なもので高価であり、価格交渉の値引き率も低いため、材料費の中の薬品費が上がっている。また、最低賃金等の人件費も上がってきているため、委託の仕様内容を見直して人数の削減を行っているが、全体として委託料がどうしても増えている。

問８　民間の診療所等からの紹介が増えないと、市立病院の受診件数も増えない。紹介件数が増える見込みなどはあるのか。

答８　どのクリニックも患者数が減っているが、紹介する必要のある患者は一定数あるので、市立病院への紹介をお願いしている。医療は病診連携を密にしていく必要があるため、地域の診療所から紹介され、市立病院で急性期の治療を終えた後は、また地域の医療機関にお願いするというように、地域全体で新型コロナウイルス感染症と戦う流れをつくっていきたい。

問９　これからの医療全体を考えて公立病院としての役割を明確に示し、国や県に対して財政措置を求めていく必要があるのではないか。

答９　5 月初めに本市単独で国への要望を上げている。地域医療を守るためには公立病院が必要不可欠であり、継続して安定的な運用を図れるよう、これからも要望していきたい。

自由討議	なし
討　　論	なし
審査結果	可決（全員一致）